

2017年度第2回阪神競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 君子蘭賞

君子蘭（くんしらん）は、ヒガンバナ科クンシラン属の植物の総称。南アフリカが原産で、日本へは明治時代に伝わった。春に広漏斗状の大形の花をつける。花言葉は「高貴」「誠実」。

○ 天神橋特別

天神橋（てんじんばし）は、大阪府大阪市にある橋および町名。名は、天満天神社が管理していたことに由来する。難波橋、天満橋とともに浪華三大橋と称され、付近には日本一長い商店街として知られる天神橋筋商店街がある。

○ 毎日杯（GⅢ）

本競走は、昭和29年に創設された重賞競走。創設当初は『東京優駿（日本ダービー）』の直後に実施されていたが、46年に実施時期が3月に繰り上げられた。また、平成19年に実施距離が2000mから1800mへと短縮された。

毎日新聞社は、東京・名古屋・大阪・北九州に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 四国新聞杯

四国新聞社は、香川県高松市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 淀屋橋ステークス

淀屋橋（よどやばし）は、大阪市の土佐堀川に架かる橋。名は、江戸時代の豪商「淀屋」に由来する。中之島と船場を結び、御堂筋の一部となっており、国の重要文化財にも指定されている。周辺には企業や大阪市の関係機関のビルが立ち並び、大阪を代表するオフィス街となっている。

○ 六甲ステークス

六甲（ろっこう）は、神戸市灘区の地名。兵庫県南東部に位置する六甲山は、周辺の鉢伏山・鉄拐山・石楠花山・摩耶山などと六甲山地を形成し、その最高峰に位置している。冬季に六甲山系から吹き降ろす強い寒風を「六甲嵐（おろし）」と呼び、プロ野球球団「阪神タイガース」の球団歌の通称としてその名が知られている。

<第3日>

○ 三木ホースランドパークジャンプステークス

三木(みき)ホースランドパークは、平成11年に開園した兵庫県三木市にある馬事施設。体験乗馬などを通じて馬を身近に感じられるほか、総合馬術競技場・キャンプ場・研修センターなども併設されている。

○ アザレア賞

アザレア(Azalea)は、ツツジ科の常緑低木。花は大形で、色は桃・紅・白など多彩。日本、中国の原種がヨーロッパで改良され、その品種は150以上にのぼる。花言葉は「恋の喜び」「自制心」。

○ ラジオ関西賞仲春特別

仲春(ちゅうしゅん)は、陰暦2月の異称。季語や時候の挨拶などに用いられる。

ラジオ関西は、兵庫県神戸市に本社を置く放送局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ コーラルステークス

コーラル(Coral)は、「サンゴ」を意味する英語。サンゴは、サンゴ科サンゴ属の刺胞動物の総称。また、その骨軸。サンゴの中でも深海に生息する硬質のものは古くから宝石として珍重され、日本では3月の誕生石としても知られている。

<第4日>

○ 御堂筋ステークス

御堂筋(みどうすじ)は、大阪市北区と中央区の2区を南北に通じる幹線道路。全国屈指の交通量を誇り、大阪市北部から北摂地域の大動脈となっている。名は、本町付近の西側沿いに西本願寺別院の北御堂と、東本願寺別院の南御堂があることに由来する。

○ マーガレットステークス

マーガレット(Marguerite)は、カナリア諸島原産のキク科の多年草。晩春から夏にかけて、中央が黄色で周囲が白色の花をつける。花言葉は「心に秘めた恋」「貞節」。

○ 大阪杯（G I）

本競走は、昭和 32 年に創設された重賞競走。春季競馬における古馬中距離路線の一層の充実を図るため、本年より G I 競走に格上げされた。創設当初は 1800m で実施されていたが、昭和 47 年に 2000m となった。また、56 年に実施時期が 3 月上旬から約 1 ヶ月繰り下げられ現在に至る。なお、優勝馬にはアイルランドのレパーズタウン競馬場で行われる『愛チャンピオンステークス（G 1）』の優先出走権が与えられる。

○ 鳴門ステークス

鳴門（なると）は、徳島県北東部の市。かつては製塩業で発展し、現在は製薬業・養殖業・農業が盛ん。同市の東部に位置する鳴門海峡は、内海側の播磨灘と外洋側の紀伊水道との干満による海面差が大きいいため、潮の流れが速くなり、渦潮を生じることで知られている。

<第 5 日>

○ 白鷺特別

白鷺（しらさぎ）は、サギ科の中でも白い鳥の総称。日本にはダイサギ・チュウサギ・コサギなどが生息している。世界文化遺産で国宝の姫路城は、その白亜の美しさから「白鷺城」とも呼ばれている。

○ 心齋橋ステークス

心齋橋（しんさいばし）は、大阪市中央区の街。名は、長堀川を開削した岡田心齋に由来するといわれている。心齋橋筋商店街一帯には、百貨店や高級ブランド店などが立ち並び、大阪を代表する繁華街となっている。

○ サンケイスポーツ杯阪神牝馬ステークス（G II）

本競走は、昭和 33 年に『阪神牝馬特別』として創設された重賞競走。平成 13 年には、『阪神牝馬ステークス』へと競走名が変更された。創設以来、数回の距離変更を経て 19 年からは 1400m で実施されてきたが、昨年からは 1600m に延長して実施され、『ヴィクトリアマイル』の前哨戦としての位置付けをより色濃くしている。なお、第 1 着馬には同年のヴィクトリアマイルへの優先出走権が与えられる。

サンケイスポーツは、産業経済新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ 天王寺特別

天王寺（てんのうじ）は、大阪市の区。また、同区と阿倍野区を含めた地域の総称。阿倍野（あべの）とも呼ばれる。商業施設が数多く立ち並び、「キタ」、「ミナミ」に次ぐ、大阪市有数の繁華街となっている。

○ 忘れな草賞

忘れな草（わすれなぐさ）は、ヨーロッパ原産のムラサキ科の多年草。春に尾状に巻いた花序を出し、青紫色などの小花をつける。花言葉は「真の愛」「私を忘れないで」。

○ 大阪－ハンブルクカップ

本競走は、大阪市と友好都市提携しているドイツ・ハンブルク市と、競馬を通じて国際親善を深める目的で平成9年に創設された交換競走。創設当初は2500mのハンデキャップ戦であったが、平成19年に芝外回りコースが新設されたことに伴い、距離を2400mに変更。また、本年より1400mの別定戦として実施される。

ハンブルクは、ドイツ北西部に位置するドイツ第二の都市。同市にあるハンブルク競馬場では『Hanshin Cup』という名の競走が実施されている。

○ 桜花賞（G I）

本競走は、イギリスの『1000ギニー』に範をとり、昭和14年に『中山4歳牝馬特別競走』として創設された重賞競走。創設当初は中山競馬場の1800mで実施されていたが、22年に京都競馬場へ舞台を移し、実施距離を1600mへ変更したのを機に現在の競走名となった。その後、25年に開催場が阪神競馬場に移され、現在に至る。

牝馬3冠競走（桜花賞・優駿牝馬・秋華賞）の第一関門となっており、3歳牝馬による華やかかつ熾烈なレースが繰り広げられる。なお、第4着までの馬には優駿牝馬（オークス）への優先出走権が与えられる。

○ 梅田ステークス

梅田（うめだ）は、大阪市北区西部の一地区。明治7年に現在のJR大阪駅が開設されてから急速に発展し、JR・阪急電鉄・阪神電車・地下鉄・バスなどが集中する、関西一の大ターミナルとなった。大阪駅、梅田駅周辺には「キタ」と呼ばれる繁華街が広がる。

なお、同地区にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ梅田がある。

<第7日>

○ はなみずき賞

はなみずきは、ミズキ科の落葉小高木。別名アメリカヤマボウシ。春に紅または白色の苞のある花を咲かせ、秋に赤い実をつける。花言葉は「私の想いを受けてください」「返礼」。

○ 蓬莱峡特別

蓬莱峡（ほうらいきょう）は、兵庫県西宮市にある峡谷。六甲断層の断層破碎帯にできた景勝地で、花崗岩の崩れた断崖が形成されている。六甲山地の代表的な登山ルートとして広く知られている。

○ アンタレスステークス（GⅢ）

本競走は、平成8年に創設された重賞競走。翌9年に京都競馬場へと舞台が移されたが、24年より再び阪神競馬場へ移設され、現在に至る。また、創設当初はハンデ戦であったが、15年より別定へと負担重量が変更となった。

アンタレス（Antares）は、さそり座のアルファ星。直径は太陽の約700倍とも推定される。ギリシャ語で「火星に対するもの」の意。

<第8日>

○ 千種川特別

千種川（ちくさがわ）は、中国山地を源とし、兵庫県の南西部を流れる川。環境省によって選定された名水百選の1つ。赤穂市の全給水量のおよそ半分を賄っている。

○ 陽春ステークス

陽春（ようしゅん）は、暖かな春のこと。陰暦正月の異称でもある。

○ 難波ステークス

難波（なんば）は、大阪市中央区から浪速区にまたがる地名。なんば駅を中心とする一帯のこと。道頓堀、千日前などとともに「ミナミ」と称される繁華街をなす。

なお、ミナミの中心施設の1つでもある「なんばパークス」内には、JRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ難波がある。